

台風 大きさや強さの表し方は? ~台風のサイエンス②~

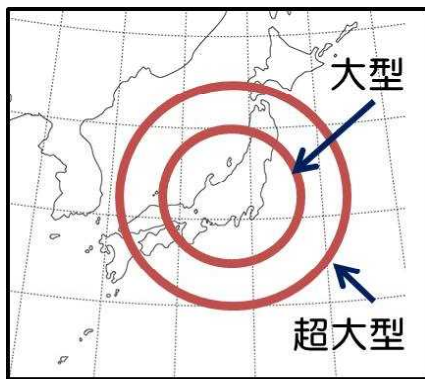
ニュースやテレビのテロップに流れる台風の大きさや強さはどのように決められているのでしょうか。気象庁は、台風のおおよその勢力を示す目安として、下の表のように台風の「大きさ」と「強さ」を表現しています。

台風の「大きさ」は、強風域（平均風速15m/s以上の風が吹いている範囲）の半径です。また、「強さ」は、最大風速によって区分されています。

今朝台湾に上陸した台風1号は正午には、中心気圧が945hPa（ヘクトパスカル）、中心付近の最大風速が45m/s、風速15m/s以上の強風半径が、北側で390km、南側で330kmでした。なので、この時は「非常に強い」台風となるわけです。

左下の図は「大型台風」「超大型台風」のそれぞれの大きさを日本列島の大きさと比較したものです。台風1号は、内側の円より大きく、外側の円よりやや小さい大きさとなります。

さらに、強風域の内側で、平均風速25m/s以上の強い風が吹いている範囲を「暴風域」と呼びます。暴風域に入ると、人は立って歩くことが困難になり、建物は、飛来物で窓ガラスが割れたりします。台風の接近・通過中は不要な外出は控え、危険な場所に近づかないようにしましょう。



「大型」「超大型」の台風の大きさ

台風の大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

台風の強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s以上44m/s未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

さて、最近よく耳にする「スーパー台風」ですが、これは米軍合同台風警報情報センター（JTWC）の台風の分類の強さによる「Super Typhoon」の直訳です。これは、最大風速が130ノット（=67m/s）を超える非常に強い台風です。日本の分類の「猛烈な」台風よりさらに強い台風なのです。

（文責：玉村かおり）